

第2編 設備別編

第1章 水門設備

第1節 直接測定による出来形管理

1 河川・水路用水門設備

2 ダム用水門設備

3 その他設備

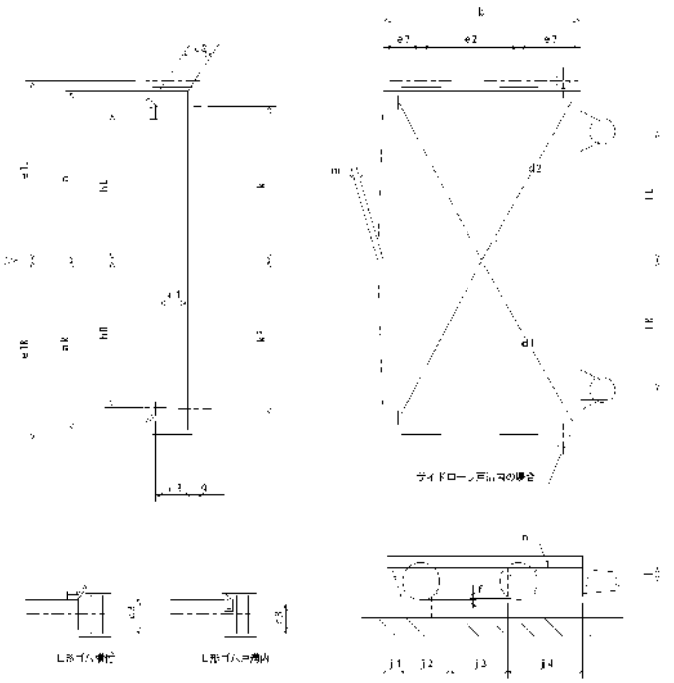
第2節 品質管理

第1節 直接測定による出来形管理

1 河川・水路用水門設備

(1) 三方水密ローラゲート

機 器 名		項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準		
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	1 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。				
		扉体の全幅 (a _L , a _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		扉体の全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主桁の高さ (c ₁)	H<0.5 ±2 0.5≦H<1.0 ±3 1.0≦H ±4	桁 1 本につき 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。	H：腹板高(m)	
		端桁の高さ (c ₂)		左右各 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c ₃)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。		
			+ 5, - 3	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右上・中・下 3 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。		
		基準点対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 (d= d ₁ -d ₂)		
		主ローラの支間 (e _L , e _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ中心間距離 (e ₂)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラから扉体下端までの距離 (e ₃)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。		
		主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。		
		水密幅 (h _L , h _R)	+ 5, - 3	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ 2 m ごとに鋼製巻尺で測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)		
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ 2 m ごとに鋼製巻尺で測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)		
		吊金物 (シーブ) 中心間距離 (i _L , i _R)	± 5	1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主桁間隔 (j)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		サイドローラ踏面間距離 (k _L , k _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		吊金物 (シーブ) 中心とスキムプレート間の距離 (l)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要
	

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三万水密ローラゲート(製作)	1 扉体	底部の曲がり (m)	± 3 レベル、金属製直尺等で測定する。
		扉体の平面度 (n)	小形 3 中形 5 大形 7 dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積 10 m ² 未満 中形：扉体面積 10 m ² 以上 50 m ² 未満 大形：扉体面積 50 m ² 以上

(注) 1 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。
2 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名		項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準		
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	2 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。				
		純径間 (a_L , a_R)	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面板中心間距離 (b_L , b_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		サイドローラ踏面間距離 (c_L , c_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面とフロントローラ踏面間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		戸当り高さ (f)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面板の厚さ (g)	+5, -0	機械加工を行う場合	上下各1箇所をノギスで測定する。	
			JISの板厚公差による	機械加工を行わない場合		
		主ローラレール桁高さ (h)	$H<0.5$ ±2 $0.5\leq H<1.0$ ±3 $1.0\leq H$ ±4	上下中央各1箇所を金属製直尺で測定する。 H: 腹板高(m)		
		基準点間の対角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($i= i_1-i_2 $)		
		底部戸当り表面の平面度 (j)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		
		底部戸当り表面の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。		
		主ローラ踏面板の真直度 (l)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。		
		主ローラ踏面板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。		
		側部水密面の真直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)		
		側部水密面の平面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		
	サイドローラ踏面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)			

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	2 戸当り	サイドローラ踏面の平面度(q)	2(3)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部(水压荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3 開閉装置	(7)開閉装置による。	

(注) 1 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。
2 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準	
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (据付)	1 扉体	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5 上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		扉体の全高 (b)	±10 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c_3)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
			+ 5、- 3	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右各 3 箇所 (上・中・下) をレベルと金属製直尺等で測定する。
		基準点对角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
		主ローラの支間 (e_L, e_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		水密幅 (h_L, h_R)	+ 5、- 3	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	d の対角基準点 4 点とその交点の計 5 点をレベル、金属製直尺で測定する。 小形：扉体面積 10 m ² 未満 中形：扉体面積 10 m ² 以上 50 m ² 未満 大形：扉体面積 50 m ² 以上
		扉体の傾き (p)	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)

(注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (1) 三万水密ローラゲート(据付)	2 戸当り		
	純径間 (a_L, a_R)	+3、-5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主ローラ踏面 中心間距離 (b_L, b_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主ローラ踏面 とフロントローラ踏面間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	側部戸当りと 底部戸当りとの 関係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	基準点間の対 角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)
	底部水密面の 水平度 (k)	2	水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺等で 2mごとに測定する。(2m以下の場合は左右各1 箇所測定する。)
	主ローラ踏面 板の鉛直度 (l)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
	主ローラ踏面 板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測 定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
	側部水密面の 鉛直度 (n)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1 箇所測定する。)
	水密面の平面 度 (o)	2/m	長さ1mの直定規から変位をすきまゲージで測定 する。
	サイドローラ 踏面の鉛直度 (p)	6	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1 箇所測定する。)
	サイドローラ 踏面の平面度 (q)	2 (3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測 定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
	据付基準線から主ローラ踏 面板までの距離 (r)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	底部戸当りの 標高 (s)	±5	中央部をレベルで測定する。
3 開閉装置	(7)開閉装置による。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

(2) 四方水密ローラゲート

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (製作)	1 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。	
	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	扉体の全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主桁の高さ (c_1)	$H < 0.5 \pm 2$	桁 1 本につき 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	端桁の高さ (c_2)	$0.5 \leq H < 1.0 \pm 3$ $1.0 \leq H \pm 4$	左右各 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c_3)	± 2	左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	基準点対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	主ローラの支間 (e_{1L}, e_{1R})	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主ローラ中心間距離 (e_2)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主ローラから扉体下端までの距離 (e_3)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	水密幅 (h_L, h_R)	± 5	(P形ゴム) ゴム受座中心間距離を長さ 2 m ごとに鋼製巻尺で測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 か所測定する。)
	吊金物(シーブ)中心間距離 (i_L, i_R)	± 5	1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主桁間隔 (j)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	サイドローラ踏面間距離 (k_L, k_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	吊金物(シーブ)中心とスキンプレート間の距離 (l)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	側部水密高さ (m)	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	底部の曲がり (n)	± 3	レベル、金属製直尺等で測定する。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名		項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (製作)	1 扉体	扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上

(注) 1 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。

2 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測定箇所標準図	摘要

機 器 名		項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準		
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	2 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。				
		純径間 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面板中心間距離 (b_L, b_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		サイドローラ踏面板間距離 (c_L, c_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面とフロントローラ踏面間距離 (d)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		戸当り高さ (f)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		呑口高さ (g)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面と水密面との距離 (h)	± 2	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		主ローラ踏面板の厚さ (i)	+ 5、- 0	機械加工を行う場合	上下各 1 箇所をノギスで測定する。	
			JIS の板厚公差による	機械加工を行わない場合		
		主ローラレール桁高さ (j)	$B, H < 0.5 \quad \pm 2$ $0.5 \leq B, H < 1.0 \quad \pm 3$ $1.0 \leq B, H \quad \pm 4$	上下中央各 1 箇所を金属製直尺で測定する。	B : フランジ幅 (m) H : 腹板高 (m)	
		基準点对角長の差 (k)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)		
		底部戸当り表面の平面度 (l)	1 / m	長さ 1 m の直定規からの変位すきまゲージで測定する。		
		底部戸当り表面の真直度 (m)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。		
		主ローラ踏面板の真直度 (n)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。		
		主ローラ踏面板の平面度 (o)	1 (2) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。		
		水密面の真直度 (p)	2	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)		
		水密面の平面度 (q)	1 / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名		項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (製作)	2 戸当り	サイドローラ 踏面の真直度 (r)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		サイドローラ 踏面の平面度 (s)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3 開閉装置	(7)開閉装置による。		

(注) 1 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。

2 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測定箇所標準図	摘要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	1 扉体	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5 上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		扉体の全高 (b)	± 10 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		水密ゴム受座 面から主ロー ラ踏面までの 距離 (c)	± 2 左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
		基準点対角長 の差 (d)	10 鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
		主ローラの支 間 (e_L, e_R)	± 5 上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主ローラ踏面 の偏差 (f)	1 左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		水密幅 (h_L, h_R)	± 5 ゴム受座中心間距離を長さ 2 m ごとに鋼製巻尺で測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		側部水密高さ (m)	± 5 ゴム受座中心間距離を左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7 d の対角基準点 4 点とその交点の計 5 点をレベル、金属製直尺で測定する。 小形：扉体面積 10 m ² 未満 中形：扉体面積 10 m ² 以上 50 m ² 未満 大形：扉体面積 50 m ² 以上
		扉体の傾き (p)	± 5 全開前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)

(注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	2 戸当り	純径間 (a_L, a_R)	± 5 上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		主ローラ踏面 中心間距離 (b_L, b_R)	± 5 上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		側部戸当りと 底部戸当りと の 関 係 位 置 (e)	± 3 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		呑口高さ (g)	± 5 左右岸及び中央部を鋼製巻尺で測定する。
		基準点間対角 長の差 (k)	10 鋼製巻尺で測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)
		底部水密面の 水平度 (m)	2 水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は左右各 1 か所測定する。)
		主ローラ踏面 板 の 鉛 直 度 (n)	2 (4) 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		主ローラ踏面 板 の 平 面 度 (o)	1 (2) / m 長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		側部水密面の 鉛直度 (p)	2 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		水密面の平面 度 (q)	1 / m 長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。
		サイドローラ 踏面の鉛直度 (r)	6 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		サイドローラ 踏面の平面度 (s)	2 (3) / m 長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。
		底部戸当りの 標高 (t)	± 5 中央部をレベルで測定する。
		据付基準線か ら主ローラ踏 面までの距離 (u)	± 5 左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	3 開閉装置	(7)開閉装置による。	

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

(3) 三方水密スライドゲート

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート(製作)	1 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。	
	扉体の全幅 (a_L , a_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主桁の高さ (c_1)	$H < 0.5 \pm 2$	H: 腹板高(m) 桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	端桁の高さ (c_2)	$0.5 \leq H < 1.0 \pm 3$ $1.0 \leq H \pm 4$	
	水密ゴム受座面から支圧板踏面までの距離(c_3)	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	基準点対角長の差(d) ($d = d_1 - d_2 $)	10	鋼製巻尺で測定する。
	支圧板中心間距離(e_L , e_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	支圧板踏面の偏差(f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	サイドシユウ 当り面間隔 (g_L , g_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	水密幅 (h_L , h_R)	± 5	ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	吊金物中心間 距離(i_L , i_R)	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主桁間隔(j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	吊金物中心と スキムプレート間の距離 (k)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	底部の曲り (l)	± 3	レベル、金属製直尺等で測定する。
	扉体の平面度 (m)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形: 扉体面積10㎡未満 中形: 扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形: 扉体面積50㎡以上

- (注) 1 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。
2 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート (製作)	2 戸当り	原則として支圧板踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。	
	純径間 (a _L , a _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	支圧板踏面板中心間距離 (b _L , b _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	サイドシュー踏面間距離 (c _L , c _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	戸溝幅 (d)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	戸当り高さ (f)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	戸当りレール桁高さ (g)	B, H < 0.5 ± 2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ B, H ± 4	上下中央各 1 箇所を金属製直尺で測定する。 B : フランジ幅 (m) H : 腹板高 (m)
	基準点間の対角長の差 (h)	10	鋼製巻尺で測定する。 (h = h ₁ - h ₂)
	底部戸当り表面の平面度 (i)	1 / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
	底部戸当り表面の真直度 (j)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。
	支圧板踏面板の真直度 (k)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
	支圧板踏面板の平面度 (l)	1 (2) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
	側部水密面の真直度 (m)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
	側部水密面の平面度 (n)	2 / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
	サイドシュー踏面の真直度 (o)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
	サイドシュー踏面の平面度 (p)	2 (3) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
3 開閉装置	(7) 開閉装置による。		

- (注) 1 小形のスライドゲートにおいて支圧板踏面板と水密板が一体形(溝形鋼使用)では、水密面の真直度、平面度の測定は省略してもよい。
2 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、桁の高さ測定は桁 1 本につき 1 箇所でよい。
3 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート (据付)	1 扉体	扉体の全幅 (a_L , a_R)	± 5
		扉体の全高 (b)	±10
		基準点間の対角長の差(d)	10
		支圧板中心間距離(e_L , e_R)	± 5
		支圧板踏面の偏差(f)	1
		水密幅 (h_L , h_R)	± 5
		扉体の平面度 (m)	小形 3 中形 5 大形 7 d の対角基準点4点とその交点の計5点をレベル及び金属製直尺で測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上
		扉体の傾き (n)	± 5 全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。(水流直角方向)

(注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準	
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート(据付)	2 戸当り	純径間 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		支圧板踏面中心間距離 (b_L, b_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		戸溝幅(d)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		基準点間の対角長の差(h)	10	基準点間の距離を測定し、その差を算定する。 ($h= h_1-h_2 $)
		底部水密面の水平度(j)	2	水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は左右各 1 か所測定する。)
		支圧板踏面板表面の鉛直度(k)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で長さ 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 か所測定する。) () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		支圧板踏面板表面の平面度(1)	1 (2) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		側部水密面の鉛直度(m)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		水密面の平面度(n)	2 / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		サイドシユール踏面の鉛直度(o)	6	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m ごとに測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		サイドシユール踏面の平面度(p)	2 (3) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		据付基準線から支圧板踏面板までの距離(q)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
底部戸当りの標高(r)	± 5	中央部をレベルで測定する。		
3 開閉装置	(7)開閉装置による。			

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

(4) 四方水密スライドゲート

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (4) 四方水密スライドゲート (製作)	1 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。	
	扉体の全幅 (a _L , a _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	扉体の全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主桁の高さ (c ₁)	$H < 0.5 \pm 2$ $0.5 \leq H < 1.0 \pm 3$ $1.0 \leq H \pm 4$	桁 1 本につき 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	端桁の高さ (c ₂)		左右各 2 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	水密ゴム受座面から支圧板踏面までの距離 (c ₃)	± 2	左右各 2 箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	基準点間の対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	支圧板中心間距離 (e _L , e _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	支圧板踏面の偏差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	サイドシュー当たり面間隔 (g _L , g _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	水密幅 (h _L , h _R)	± 5	ゴム受座中心間距離を高さ 2 m ごとに測定する。 (2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
	吊金物中心間距離 (i _L , i _R)	± 5	1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	主桁間隔 (j)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	水密高さ (k)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	吊金物中心とスキンプレート間の距離 (l)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	底部の曲がり (m)	± 3	レベル、金属製直尺等で測定する。
	扉体の平面度 (n)	小形 3 中形 5 大形 7	d の対角基準点 4 点とその交点の計 5 点をレベルで測定する。 小形：扉体面積 10 m ² 未満 中形：扉体面積 10 m ² 以上 50 m ² 未満 大形：扉体面積 50 m ² 以上

(注) 1 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁 1 本につき 1 箇所で行い、

2 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名	項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (4) 四方水密スライドゲート (製作)	2 戸当り	原則として支圧板踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。	
	純径間 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	支圧板踏面板 中心間距離 (b_L, b_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	サイドシュー 踏面間距離 (c_L, c_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	戸溝幅 (d)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	側部戸当りと 底部戸当りと の関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	戸当り高さ (f)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	呑口高さ (g)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
	戸当レール桁 高さ (h)	$B, H < 0.5 \pm 2$ $0.5 \leq B, H < 1.0 \pm 3$ $1.0 \leq B, H \pm 4$	上下中央各 1 箇所を金属製直 尺で測定する。 B : フランジ幅 (m) H : 腹板高(m)
	基準点間の対 角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)
	底部戸当り表 面の平面度 (j)	1 / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。
	底部戸当り表 面の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。
	支圧板踏面板 の真直度 (l)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測 定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定す る。)() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や 水密の必要がない部分) の許容差を示す。
	支圧板踏面板 の平面度 (m)	1 (2) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の 影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
	側部水密面の 真直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測 定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定す る。)
	側部水密面の 平面度 (o)	2 / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。
	サイドシュー 踏面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m ごとに測 定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定す る。)
	サイドシュー 踏面の平面度 (q)	2 (3) / m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の 影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
3 開閉装置	(7) 開閉装置による。		

- (注) 1 小形のスライドゲートにおいて支圧板踏面板と水密板が一体形(溝形鋼使用)では、水密面の真直度、平面度の測定は省略してもよい。
2 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、桁の高さ測定は桁 1 本につき 1 箇所でよい。
3 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

機 器 名		項 目	規 格 値 (mm)	判 定 基 準
水門設備 1 河川・水路用水門設備 (4) 四方水密スライドゲート (据付)	1 扉体	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		扉体の全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		基準点間の対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
		支圧板中心間距離 (e_L, e_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		支圧板踏面の偏差 (f)	1	左右各 1 箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		水密幅 (h_L, h_R)	± 5	ゴム受座中心間距離を高さ 2 m ごとに測定する。 (2 m 以下の場合は上下各 1 か所測定する。)
		水密高さ (k)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		扉体の平面度 (n)	小形 3 中形 5 大形 7	d の対角基準点 4 点とその交点の計 5 点をレベル及び金属製直尺で測定する。 小形：扉体面積 10 m ² 未満 中形：扉体面積 10 m ² 以上 50 m ² 未満 大形：扉体面積 50 m ² 以上
		扉体の傾き (o)	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)

(注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要